

佐賀県研究成果情報

高品質果生産のためのマルチ被覆時期の早期化					
[要約] <u>極早生温州</u> は6月下旬、 <u>早生温州</u> は7月上旬、 <u>普通温州</u> では7月下旬と、 <u>マルチ被覆時期</u> を <u>早期化</u> することで、より高い <u>品質向上</u> 効果が得られる。					
果樹試験場・常緑果樹研究室			連絡先	0952-73-2275	
部会名	果 樹	専 門	栽 培	対 象	温州みかん

[背景・ねらい]

マルチ栽培では、圃場条件や気象条件等により品質向上効果に差が見られる。そこでマルチ被覆時期を早期化することで、より高い品質向上を図る。

[成果の内容・特徴]

1. 収穫時の果実糖度は、極早生温州、早生温州、普通温州ともに通常マルチ区と比べて早期マルチ区で高くなり、果実着色も良好となる(第1、2、3表)。
2. 早期マルチ区の果実肥大は、通常マルチ区や無マルチ区より抑えられる(第1、2図)。
3. 試験圃場におけるマルチ被覆下の土壌pF値は、早期マルチ区の値が高く推移したが、被覆期間中に値の変動があり、地下水等の影響が考えられる(データ略)。

[成果の活用面・留意点]

1. 早期マルチは、極早生温州で6月下旬、早生温州で7月上旬、普通温州で7月下旬に被覆を行う。
2. 早期マルチは、通常時期のマルチ被覆で十分な品質向上効果が得られない園地に適する。
3. マルチ栽培の効果を高めるためには、マルチの早期化のみでなく、園地の排水整備等の圃場改善も含めた総合的な対策が必要である。
4. 早期マルチでは、減酸対策のためのかん水対応も考慮しておく必要がある。

[具体的データ]

第1表 早期マルチによる収穫時の果実品質(極早生温州) (2001 10.24)

	果実重(g)	果肉歩合(%)	果皮色(a値)	糖度(Brix)	クエン酸(%)
早期マルチ区	102.2	77.1	19.3	11.4	0.90
通常マルチ区	108.9	77.8	18.8	10.8	0.88
無マルチ区	111.5	78.7	12.4	9.4	0.99

* 上野早生、早期マルチ(6月24日～10月24日被覆)、通常マルチ(7月6日～10月24日被覆)

第2表 早期マルチによる収穫時の果実品質(早生温州) (1997 11.20)

	果実重(g)	果肉歩合(%)	果皮色(a値)	糖度(Brix)	クエン酸(%)
早期マルチ区	111.3	79.9	18.7	11.6	0.98
通常マルチ区	99.2	76.5	18.6	11.2	1.15
無被覆区	108.8	77.1	17.9	10.5	1.03

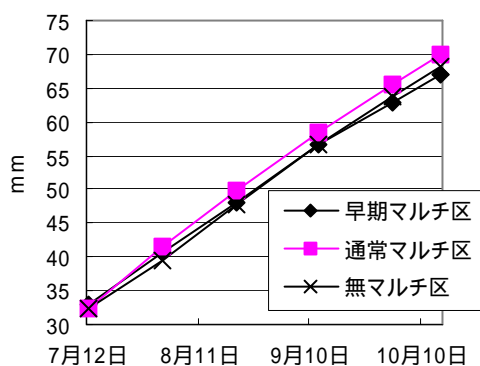
* 早期マルチ(6月30日～11月20日被覆)、通常マルチ(8月7日～11月20日被覆)

第3表 早期マルチによる収穫時の果実品質(高糖系普通温州) (2001 11.24)

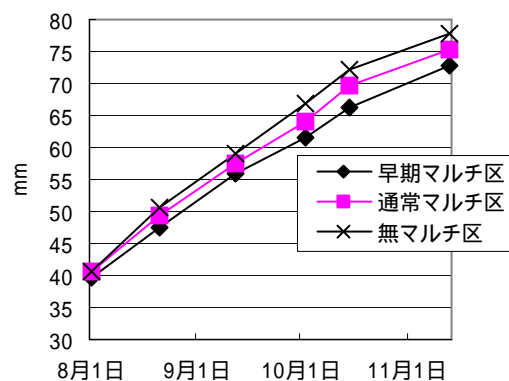
	果実重(g)	果肉歩合(%)	着色歩合	糖度(Brix)	クエン酸(%)
早期マルチ区	104.0	76.3	9.9	13.6	0.89
通常マルチ区	115.1	77.9	9.6	12.9	1.19
無マルチ区	125.2	78.0	8.6	11.5	1.04

* 大津四号、早期マルチ(7月24日～11月24日被覆)、通常マルチ(8月6日～11月24日被覆)

* 着色歩合は、調査果実の着色程度を達観により判別し数値化したもの(完着:10)



第1図 果実横径の推移(極早生温州)



第2図 果実横径の推移(普通温州)

[その他]

研究課題名: 温州みかんの生態・環境情報収集による生育予測技術の開発

予算区分: 県単

研究期間: 平成5年～14年

研究担当者: 貝原洋平、新堂高広

発表論文等: 平成13年度常緑果樹試験成績概要集